

# 議 事 録

会議名	令和6年度 第1回丸森町復興推進委員会
日時	令和6年7月1日(月) 13:30~15:10
場所	丸森まちづくりセンター 2階 大集会室

## 1. 出席委員 別紙「出欠確認表」のとおり

## 2. 開会（司会：企画財政課 梶田課長補佐）13:30

## 3. 議題（議事進行：大槻委員長）

### (1)丸森町復興推進委員会設置要綱の一部改正について《説明：目黒班長》

・資料1を基に説明

【質疑応答等】

→なし

### (2)「復旧・復興の進捗状況」（見える化グラフ）について《説明：目黒班長》

・資料2-1、2-2、参考資料1、2を基に説明

【質疑応答等】

Q宍戸委員：内川水系の鷲ノ平について確認したい。完成はいつ頃になるか。

A 災対専門官：林道鷲ノ平線は高低差があり、国有林も入っているために若干遅れ気味である。年内までになんとか完了できるよう進めている。

Q柴山副委員長：事業がいつ頃終わるのか。また、同じような台風が今年来たらどうなるのか。整備が終わっていないので、想像的にどこがやられやすいのか。もちろん完成すればある程度は防げるのだろうが、町として把握できているか。

A建設課長：資料2-1の3頁に「河川の原形復旧は既に完了しており、機能強化工事等を含む」としてのとおり、災害復旧としては完了している。

現時点で河川砂防については今後の災害に対応するのに必要な機能強化をさせていただいているところであり、令和8年度完了目標としている。また、国道349号別線ルート of 応急対策については約1年で完了している。トンネルは2号が5月に貫通し、1号・3号も年内に貫通予定であるが、完了時期の明確な回答はない。

同じような災害が来たらどの面が脆弱かということだが、原形復旧は完了している。河川は断面拡大によって10年確率から30年確率に広がっており、一部堤防も強靱化、機能強化されている。

資料2-1の7頁右上に内水氾濫対策について記載している。災害当時と比較して現在能力は1.5倍の能力が確保されている。

→柴山副委員長：同レベルの災害があればやはり逃げないといけないことに変わりはない。能力強化

された、完成したとして台風 19 号以上の災害が来る場合もあるので、ソフト対策についても町で進めていただきたい。

→宍戸委員：災害を受けてどういう工事がなされて、どれくらいカバーできるかを町民が理解していないといけない。建設課長からも 30 年に一度の災害に対応という話があったが、あの災害に対応する工事は国でも難しい。

雨がどこにどう降ったらどれくらいの時間で逃げなくてはいけないうか、防災に活かしていかなければいけない。工事が終わったから大丈夫、ではない。これからも災害は起こりうるという意識を持つ。

西園寺脇からの直接放流管、あれはとても活きると思う。ポンプの能力強化をいくら図っても、途中から水を抜かなければ効果（結果）が違う。

雨が降るたびに逃げることを考えることが大事だと工事の様子を見ながら考えている。一番は「死なない」こと。それを周りの人にも伝えて逃げる。

Q 大槻委員長：耕野地区の避難所になっている耕野まちづくりセンターの指定管理をしている。

災害が来たら、と避難所の安全について日々考えている。耕野まちづくりセンターの裏にはまだ崩れた箇所が残っている。やはり、住民の安全のためには避難所の安全対策、環境づくりは大事だと考えている。いつ頃対応いただけるか。

A 災対専門官：法面部分の崩落については、農地災の本災事業となっていない。令和 5 年 11 月に詳細対応部分の調査を実施しており、全部で 250 件を超える箇所の不具合を把握している。現在、現地調査を進めており、それを基に工事もしくは補助金のすみ分けを行う。町としては 9 月補正に提出すべく進めている。

### (3) 「丸森町復旧・復興計画実施計画書」について

・資料 3-1、3-2、4 を基に説明

#### 【質疑応答等】

Q 柴山副委員長：学校の防災マニュアルについて、小学校が統合されて時間も経っているので、整備はほぼ終わっているはず。今年中に公表でよいか。

A 学校教育課長：国の制度の改正などもあり、見直しを行いながら一部公表ということで記載している。今年ホームページで公表予定。

→柴山副委員長：もちろん必要に応じて更新していくと思うが、いったん完成品を出す必要がある。町民にも公表し、子どもたちがどのように守られているか理解いただく。学校だけではなく、地域の皆さんにも協力いただく部分があるので是非共有していただきたい。

Q 柴山副委員長：コミュニティの再生について。ほかの自治体でも問題になっているところだが、コロナの影響でコミュニティが崩壊しつつあるところが多く出てきている。外に出歩かなくなった高齢者が増えていて、今までのように地域の行事に参加しない。見守りの部分をどう考えているか。

A 目黒班長：コミュニティの支援の一つとして、組織が立ち上がったばかりの神明住宅・神明北住宅の 2 住宅会の運営支援を企画財政課で行っている。

→柴山副委員長：それはそれでいいこと。全体としてコミュニティが変わってしまっている。町全体としてコミュニティ再生をしっかりと見ていかないといけないと思う。

→石塚委員：昨日はじめて地区の避難訓練に参加した。まず9時半に家を出発し避難所になっている目の前の小学校まで歩くというもの。すぐ着くだろうという見積もりとは違い、忘れ物などで戻ったりして考えていたとおりではなかった。

会場に着くと、この地区にはこういう人たちがいて、こんな感じで避難してくるのだという様子も伺えて、これは大事だと思った。一緒に避難した家族は久しぶりに会った人の顔を見て安心し、繋がりは防災の訓練からも出来るのだと感じた。

自分は避難する訓練だったが、防災の委員にとっては逃げ遅れ・避難遅れがないかの確認の訓練でもあった。実際に発災してからではなく、事前に訓練でイメージできるのはいい。自分の地域への安心感が増した。

現在館矢間地区で小学生を対象に防災も意識した宿泊体験を企画している。保護者が中心となり、どういうことを体験させようか考えているところ。地域と学校とうまくつなげて、年代関係なく、子どもを通してコミュニティを広げていきたい。

→柴山副委員長：すごくいい取り組みである。コミュニティをしっかり作っていくと、逃げ遅れや見逃しがなくなるし、避難もスムーズになる。若者も併せて考えていくことで地域の活性化にもつながる。

#### (4)丸森町復旧・復興計画の今後について

・資料5を基に説明

##### 【質疑応答等】

Q柴山副委員長：ハード面について説明があったが、それ以外で計画に書かれている部分はいつまでやるのか。令和6年度で終わりにするのか、一部は令和8年度まで延ばすのか。

A企画財政課長：復旧・復興計画そのものは8年度まで延長というのは先ほど説明したとおり。元々、復旧・復興計画が第五次総合計画の後期基本計画を兼ねていた。現在、第六次総合計画の策定作業を進めている。いわゆる前期基本計画の中に、これまで復旧・復興計画に含めていたソフト事業等を引き継ぎつつ、ハード事業は復旧・復興計画に位置付け、並行して進めていくという考えでご理解いただきたい。

Q佐久間委員：工事期間が2年延長になった理由についてももう少し分かりやすく説明いただきたい。一番心配しているのは、工期が延びれば延びるほど、大雨が降った場合どうなるのか。途中まで出来ているものが流されるなど大きな工事の遅れにつながるのではないか。

A建設課長：国道349号については計画当初から明確な完了年度は示していない。あの巨大なトンネルをたった数年間でつくっていただいている。大きな工事ゆえに遅れて見えてしまっている。川沿いの道路は復旧している。

町の直接放流管に関しては、発注後に掘削するためのボーリングマシン製作に半導体を必要としたが、入手に想定外の時間を要してしまった。

今、災害が来たらという質問があったが、そこは国も理解していて、河川断面の拡大等完成前の災害も考慮して工事を進めている。今できる精一杯のことをやっていたい。

A総務課長：河川防災ステーション・水防センターについては、当初の計画になかったもので、令和3年から話が進んでいる。土盛りが今年度末までかかるため、令和7年度になら

ないと建てられない。

国の事業について建設課長の説明に補足する。いつまでかかるかということは最初から終期が示されていなかった。復旧・復興計画期間の範囲で国も頑張るってやるということで表記していたが、終わりが近づくにつれてそうはいかなくなった。

→佐久間委員：計画期間は記載のとおりと捉えていた。1年は延びると思っていたが2年も延ばすのか。完成前に大きな災害がないことを祈るしかない。

河川防災ステーション・水防センターとして立派なものができるようだが、駐車場が少ない。皆さん徒歩ではなく車で移動すると思う。行く途中でパニックにならないかという心配もある。

→穴戸委員：この災害は複雑で難しく、そして大きいものだった。現場を見るのが一番。遊砂地が必要なほどの災害であった。遅れてもしっかり作るというのは理解できる。

ハード事業は目で見て進捗や完了が分かるが、ソフト事業は見えづらい。長いスパンで判断し、どうしていくのかを資料5のように今後記載いただきたい。

→上村委員：子どもたちなど若い方、経験していない方に対するの伝承が大事になっていくと思う。ハード事業の説明はいただいたが、ソフト事業で「どのように伝承していくのか」をこれから話し合っていくのが大事なのではないか。

→柴山副委員長：防災面の伝承はとても重要で、学校の中でも防災教育が進んでいる。しかし、町民向けの防災教育ができていないと思う。水防センターができるまで待っていていいのか。イベントを開催するなど町でしっかり進めていく必要がある。

復興の遅れについて、コロナの影響も大きかったと思う。外出禁止令や制限があり、思うようにミーティングができなかった。あのタイミングでの流行が復興の進捗に影響したという外的要因もある。

#### 4. その他（事務局より）

・現在の復興推進委員の任期が今年の10月30日までとなっている。任期中に復旧・復興の現場視察を予定しているが、時期や内容などこれから調整するため、決まり次第委員にご連絡する。

来年度以降の復興推進委員については来年度の委員会時に改めて委嘱する。

#### 5. 閉会 15:10

以上